パブリック・サービス研究分科会（‘０４～‘０５年度）講義メモ

＊時期：２００５（平成１７）年０１月１２日（水）　**＊時間：**１４：３０～１７：４５　**＊場所：**慶應義塾大学三田メディアセンター５Ｆ研修室

【講義】　ケースメソッドプログラム「日曜開館と開館時間延長」　講師／慶應義塾大学国際センター事務長　加藤好郎氏

開会に先立ち、この日のタイムテーブルが以下のように講師から提示され、そのフローの説明が下記カッコ内のようになされた。

①１４：４０－１５：００（ケーススタディーとケースメソッドについてのプレゼン）　②１５：００－１５：１５（別ドキュメントを用いての仮想ケースの説明）　③１５：１５－１５：４５（②の状況下での各個人の考え方を構築）　④１５：４５－１６：３０（事前設定された３つのグループに分かれて③で構築した各個人の考え方を説明し、各グループとしての統一見解を構築）　⑤１６：４０－１７：１０（④で構築した各グループとしての統一見解をプレゼン）　⑥１７：１０－１７：３０（講師がリーダーとなり、⑤で発表された各グループとしての統一見解をさらにクラスとしての統一見解を構築すべくディスカッション）

以下は④の段階の結果。グループ構成メンバーは別紙。

グループ	検討結果	検討結果理由	サービス体制	運営体制	財政基盤
A	・日曜開館（試験期間のみ） ・開館時間延長	予算消化状況がよくない。 利用者ニーズに応対。	日曜開館－１２月、１月のみで１０：００～１５：００。 時間延長－１０月から１月までで閲覧サービスのみ実施。	委託スタッフだけで実施	高額図書予算から捻出
B	・開館時間延長	利用者ニーズに応対。一気にサービスは拡大しない。	月～金までを２２：００まで開館	委託スタッフと専任スタッフで実施	委託スタッフの勤務時間シフト。研究図書予算から捻出。２，３，８，９月の開館時間を１０：００としてこの１時間分を充当。
C	・日曜開館（試験期間のみ） ・開館時間延長	利用者ニーズに応対。サービス向上。	日曜開館－テストケースとして試験期の１月のみ実施、１０：００－１５：００、閲覧サービスのみ実施。 時間延長－９月から実施し、閲覧サービスのみ実施	日曜開館－専任スタッフのみで実施、ただし内１名は必ず管理職とする。時間延長－業務委託時間１４：００にシフト。土曜日時間を９：００、１０：００にわける。	高額図書予算と経常費かから１３００万、研究室予算から７００万、法人から１０００万。

これをもとにクラス統一見解を出すべく検討を重ねた。ポイントは「B グループへの日曜開館説得材料」「日曜開館の場合の管理職の貼り付け」「財政基盤をどこからにするか」ということになった。その結果、各グループとも“年度内はテストケースとして”を大前提として以下のクラス統一見解となった。

・日曜開館　・開館延長	利用者ニーズに対応する。	開館は１時間延長。日曜開館は１月の試験期のみ。	管理職と委託スタッフで対応	主として高額図書予算から捻出

ここで、次年度での図書予算復活交渉が重要ポイントとして指摘された。

以上